

夜間想定訓練の実施

職員の少ない夜間は、「通報」「初期消火」「非難誘導」などの活動をすべて夜勤者が行うことを想定しなければいけません。管理者を中心に、あらかじめ夜間における行動手順を検討しましょう。

訓練想定：夜間に発生した火災に夜勤者が一連の対応をします。
出火場所：非難の支障となる場所を設定します。
避難目標時間：より迅速に対応できるよう、数回の訓練から平均値を出し時間設定しましょう。

【基本的な流れ】



【火災発生】

- 近くにある消火器と電話を持って現場に行きます。
- 大きな声で利用者と近隣に火災の発生を知らせます。
- 消火可能と判断した場合は、初期消火を実施します。

【119番通報】

- 火災通報装置が設置されていない場合は、施設の電話、または携帯電話で119番通報を実施します。
(事前に消防への届出が必要です、または自分の施設に模擬通報をし練習をしましょう)

【初期消火】

- 消火器で初期消火を行います。(15秒間消火姿勢を維持)
- 消火後は延焼防止、煙の侵入を防ぐため出火室の扉を閉鎖します。

【避難誘導】

- 自力避難が可能な利用者に避難の指示を行います。
- 出火室に近い利用者から避難誘導を行います。
- 避難経路は出来るだけ出火室から離れるようにします。
- 近隣協力者が到着した場合は、「非難誘導の支援」や「非難した利用者の保護」など協力事項を伝えます。

【消防隊への情報提供】

- すべての利用者が避難完了した時点で、管理者が避難状況を聞き取り訓練終了とします。



- 火災発生から避難完了までの時間を計測しましょう。
- 出火場所を知らせずに実施する事も効果的です。
- 消防設備を有効に活用する事を考えましょう！
例えば、火災通報装置を活用すると、119番通報が自動化されるので、「火災の発生」→「初期消火」→「非難誘導」の手順が可能になります。